

G GREEN ニュース

行動する環境アドバイザーの会報

第 100 号 2025

環境アドバイザー連絡協議会

第 13 期代表 井上金治

令和 7 年 4 月 発行

創刊平成 5 年 7 月 16 日



群馬県甘楽町小幡の雄川堰沿いに咲く約 50 本のソメイヨシノは、江戸時代の城下町の風情と調和し、春の訪れを彩ります。毎年 4 月上旬には「城下町小幡さくら祭り」が開催され、武者行列が桜並木を練り歩き、歴史と自然が織りなす風景が楽しめます。

常見 智之（前橋市）

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2025 年 4 月 22 日現在）

第 13 期（登録期間：2024 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計 337 名です。自然環境部会 188 名、温暖化・エネルギー部会 148 名、ごみ部会 116 名、広報委員会 52 名が登録し活動されています。

【目次】

- P2 グリーンニュース 100 号の発行を祝して
- P3 群馬県環境アドバイザー制度の設立とその後の活動経過
- P5 美しい自然を次の世代に
- P6 環境アドバイザー今までの活動を振り返る
- P8 私の基本的な認識
33 年 100 号を振り返りながらのこれから
- P9 温暖化防止のための部会メンバー相互の協働に向けて
- P10 中部地区の活動とは
東部地区のこれまでの活動と今後の展望
- P11 2030 年目標期限に向けた取り組み
地域との関係強化
- P12 環境アドバイザーに登録して
編集後記

群馬県環境情報サイトの URL が変わりました
2023/10/1～



<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>

ECO ぐんまの X（旧ツイッター）をフォローしよう！



グリーンニュース 100 号の発行を祝して

群馬県環境森林部長 永井 浩二

この度は、グリーンニュース 100 号の発行を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

群馬県環境アドバイザー登録制度は平成 4 年 10 月 1 日に創設したもので、環境に責任を持つ人づくりに向けて、環境倫理の醸成のための普及啓発活動や県民一人ひとりの環境保全の取組の充実を図るため、市民運動の牽引役として活動する方々の支援を目的としています。

本制度の創設からの歩みを振り返ってみますと、登録者数 158 人でスタートしたところですが、登録方法を見直して一般応募を可能にしたことで、登録者数が大きく増加するなど環境問題への関心度の高さが伺えました。

平成 9 年度には、群馬県環境アドバイザーが相互に連携を深めることが環境保全活動の活性化に繋がることから、群馬県環境アドバイザー連絡協議会を立ち上げており、本協議会では四半期に一度、本誌を発行することや環境フォーラム（旧みんなのごみ減量フォーラム）等の研修会を開催すること、環境にやさしい買い物スタイル普及啓発活動（旧マイバック運動）へ参加するなど、まさに県民を牽引する活動を積極的かつ継続的に取り組まれました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

世界では、プラスチックごみの投棄や汚水の排出による海洋汚染、森林破壊や動植物の乱獲による生物多様性の減少、そして、温室効果ガスの過剰な排出による地球温暖化などが年々深刻化しています。地球温暖化が原因とされる気候変動では、アメリカやオーストラリアで大規模な山火事を発生させ、また、スペインやリビアで洪水を発生させるなど、世界各地で人的・物的被害が出ています。日本も例外ではなく、能登半島での豪雨災害や群馬県を含む全国各地において、猛暑日の増加による農作物被害が発生するなど、早急な対策を求められています。しかし、ウクライナとロシアによる戦争やアメリカのパリ協定からの離脱など、これら環境問題に対する世界各国の足並みは揃っていません。

このような情勢において、群馬県では令和 4 年に 2050 年に向けた「ぐんま 5 つのゼロ宣言」実現条例を制定し、温室効果ガスの排出量ゼロに向け再生可能エネルギーの導入を支援するなど様々な取組を行っています。また、昨年には都道府県で初となる「ぐんまネイチャーポジティブ宣言」を表明し、単に自然を守るだけでなく、私たちの社会・経済全体が生物多様性の保全に貢献するような社会変革をもたらす仕組み作りに取り組んでいます。本県としましては、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、様々な施策に取り組んで参ります。

これら取組を実現するためには、群馬県環境アドバイザーの皆様の協力は欠かせず、今後、より大きな役割を果たされることを期待しておりますので、引き続き御支援と御協力をお願い申し上げます。

結びに、群馬県環境アドバイザーの皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



群馬県環境アドバイザー制度の設立とその後の活動経過

3～4期 代表書記 5～8期 代表 鈴木 克彬

A) スタートは市町村推薦

平成4年(1992年)当時の群馬県環境政策課宮崎課長は、群馬県内で広く環境活動を推進するためには、県民の協力がどうしても必要と考え、市町村に環境アドバイザー推薦の要請を行いました。しかしこの要請依頼は市町村にとっては大変な負担になったと聞いています。

それは、人選・市町村から県庁までの送迎・交通費・手当等の問題です。県当局は市町村からの問い合わせ、問題提起等に苦慮したと言われています。

注記・・・私鈴木は、当時の富士見村から推薦され、平成6年度(1994年)から環境アドバイザーとなりました・・・



B) 自主登録制度と連絡協議会の設立

平成8年(1996年)上記問題等に苦慮した県当局は、思い切って“自主登録制度”に切り換え、広く県民を対象に募集を行いました。当実施は大成功、300名超の方々が登録されました。しかし、今度はどのように運営・活動していくのがテーマとなり、当時の有志が協議の結果、『群馬県環境アドバイザー連絡協議会』の設立が決まりました。

そして代表は前橋市の新井 栄氏、鈴木は代表書記となりました。

・・・その後、平成14年(2002年)には、最高701名が登録されました・・・

C) 専門部会と地域部会の設立と活動

専門部会の内訳は (1)自然環境部会 (2)ごみ部会 (3)地球温暖化部会 (4)環境教育部会それに広報部会です。広報誌グリーンニュースは平成10年8月、第1号発行です。

一方、『各地域での教育・活動も大切』との声が多くあり、中毛・西毛・東毛・北毛等の単位で役員の重複は可として『地域部会も発足』、市町村民及び市町村行政との連携を図ることに鋭意・努力することとしました。

D) 環境先進国と言われるヨーロッパ各国への環境視察旅行2回の実施(費用は自己負担)

1回目 平成13年(2001年) ドイツ・オーストリア・スイス 18名参加 12日間

2回目 平成16年(2004年) ドイツ・デンマーク・スウェーデン 18名参加 13日間

・・・同視察団には、県庁職員・上毛新聞社記者 各1名が同行・・・

上毛新聞には、同行した後藤及び石黒記者が連日同社に報告、紙面に掲載されました。

E) 全県的なマイバックキャンペーン運動の実施

『無駄をなくそう』をテーマに、平成12年～20年にわたり、県内の市町村・消費者団体と一体となり、『マイバックキャンペーン運動』を行い、集会やスーパー等の店頭にてチラシ等の配布、啓発に努めました。

F) 上毛新聞紙上での啓発

県民の方々に、環境問題への理解を深めていただくため、上毛新聞に『環境アドバイザーからの提言』とのテーマで、新聞紙上に2度にわたり連載させていただきました。

1回目 平成13年度 12名 12点、 2回目 平成16年度 15名 15点です。

G) 市町村でのリサイクル事業の実施依頼と協力

リサイクル活動を定着させるため、各市町村の自治会毎に管理倉庫を作り、古新聞、古雑誌、段ボール・廃油等の回収に協力しました。現在では、そのシステムは定着、自治会・老人会・子供会の経費確保等にも役立っているとのことです。また、県・各市町村のリサイクル率向上にも貢献しています。

H) 活動経費について

当アドバイザー制度の手当は、一切ありません。そのため通信交通費等は、すべて自己負担のボランティア活動です。そのため費用持ち出しの実態を県当局に申し入れ、その対策として、平成12年度(2000年)、『地域環境学習制度』を新たに立ちあげ、その補填対策として活動しているのが現状です。是非、当制度の活用をお願いします。

◎ 纏め

環境問題の対策は、点から面への展開が必要だと思います。そのためにはどうしても県当局との連携と市町村の理解・協力・実施が必要です。

今後益々、皆様のご活躍を祈念します。
以 上

デコ活宣言！ネイチャーポジティブ宣言！

この度、群馬県環境アドバイザー連絡協議会として“デコ活宣言”、“ネイチャーポジティブ宣言”をいたしました。

私たち環境アドバイザー一人ひとりの行動（デコ活）でバタフライエフェクトのような効果を生み、2030年のネイチャーポジティブ（自然再興）の実現、さらに2050年の“自然と共生する社会”を目指して行きましょう。



各 HP へのリンク

[デコ活宣言！](#)



[ネイチャーポジティブ宣言！](#)

美しい自然を次の世代に

第13期環境アドバイザー連絡協議会代表 井上 金治

平成5年（1993）7月に刊行されたグリーンニュース（GN）は、100号を迎えることができました。GNのバックナンバーには、環境アドバイザーの長期にわたる活動の足跡が記録されています。このように活動が継続できたのは、諸先輩やアドバイザーの皆様の努力があったからだと思います。

さて、GNが発行された平成5年ごろは、環境に対する国民の理解はそれほど進んではいませんでした。しかし、環境問題は年ごとに深刻になり、大気中の二酸化炭素（CO₂）濃度も著しく増加しました。このまま人類が行動を起こさない限り、GNが200号を迎える2050年ころには、大気中のCO₂濃度は750ppm程になり、平均気温も



2ないし3度上昇することが予測されています。このようなCO₂濃度の増加は、ヒトを含む陸上の生物に甚大な影響をもたらすとともに、海水の酸性化も進め、海洋生物の多様性も大きく損失することが懸念されています。

このような現状の中で、私たちはわが国の本来の自然がどのようなものであったかを考える必要があります。特に、高齢者の私は、戦後間もないころのわが国の豊かな自然を知っています。その当時、わが国の里山の水田や小川にはフナ、ドジョウがたくさんいました。また、河川の水たまりにはきれいな婚姻色をしたミヤコタナゴを見ることができました。そして、これらの自然は“太陽に手のひらを”などの唱歌となり、日本人の心のふるさとなったのです。この時代はもちろんスマホや自家用車もない生活でしたが、子供たちは自然を相手に楽しく遊び、豊かな心を育むことができたのです。私たちはこのような自然を少しでも復活し、次の世代に残す責任があります。

環境に優しい暮らし方の一つとして、可能な限り自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用することが挙げられます。そのような中、私は高齢になったことから昨年、運転免許を返納しました。最初は行動が制限されるのではと不安でしたが、公共交通機関が予想以上に便利で、返納前よりむしろ行動範囲が広がったような気もしています。また、非常に心強かったことは、環境アドバイザーの若い方たちが公共交通機関を使用したイベントを積極的に企画している事でした。このような体験から、環境に優しい暮らし方は少し不便そうにも思いますが、いろいろと工夫することにより予想以上に楽しいことを学ぶことができました。

さて、環境問題は人間が過剰に作り出した“化学物質”が原因です。このような“もの”に加え、人類は驚異的な能力を持つ人工知能（AI）を生み出してしまいました。今後、このAIの社会への影響は注意する必要があります。そのような中、AIが現在の環境問題をどのように判断しているかに興味があり、次の質問をしてみました。

“農薬は神経発達に影響しますか？”

（AIの回答）：はい、農薬は神経発達に影響を与える可能性があります。特に、子どもの精神神経系の発達に悪影響を及ぼすことが指摘されています（文献）。例えば、有機リン系農薬やネオニコチノイド系農薬は、神経伝達物質の働きを攪乱し、IQの低下や学習能力の低下などの問題を引き起こすことが報告されています（文献）。農薬の影響を受けやすいのは特に子どもであり、妊娠中の母親が農薬に曝露されることも、胎児の神経発達に悪影響を与える可能性があります。農薬の使用を減らし、無農薬の食品を選ぶことが、健康を守るための一つの方法です。

私はAIの科学的で公正な判断に多少驚き、安堵しました。多くの子供たちが神経発達に問題を持つ現代において、このAIの回答に対する捉え方は各個人に委ねることとし、今後、AIが一部の権力者に与するような判断をしないことを願いたいと思います。－ 次の200号のころは環境問題が少しでも改善することを夢見つつ －

環境アドバイザー今までの活動を振り返る

～様々な問題乗り越え更なる高みへ～

広報委員会 上田 優希 西村 豊

平成10年度、GN第1号が発行してから時代とともに時間が経過し、今日で100号を迎えました。迎えるにあたり、今日まで、たくさんの方のご協力いただき感謝を申し上げます。

さて、環境アドバイザーが発足し今日まで、たくさんの条約が締結、様々な気候変動がありました。そこで今回は、環境アドバイザーを1期から13期まで、世界の環境問題にも触れながら振り返っていこうと思う。

第1期～第6期（平成4年～平成18年度） 代表 第4期：新井氏 第5～8期：鈴木氏

アドバイザーの活動	日本の変動	世界の変動
H4 環境アドバイザー制度設立	ラムサール条約COP5	地球リミット
H8 自主登録へ要領改正	H7 マイバックキャンペーン開始	生物多様性COP3
H9 環境アドバイザー連絡協議会設立※1	環境影響評価法公布	気候変動枠組条約COP3
H10 マイバックキャンペーンスタート	地球環境戦略研究機関設立	G8サミット
H12 5つの分散会として協議開始※2	循環型社会形成推進基本法	日中韓三か国環境大臣会合
〃 宿泊研修開催	第2次環境計画閣議決定	国連ミレニアムサミット
H13 視察旅行・ 環境フェスティバル参加※3	環境省発足	米国京都議定書離脱
H14 連絡協議会 大臣賞受賞	ストックホルム条約加入	持続開発に関する世界首脳会議
〃 エコムーブ号導入・環境サポーター選定※4	決定	モントリオール議定書MOP17
H16 環境問題視察旅行（独・丁・瑞）	景観法公布	京都議定書発効
H17 環境アドバイザー専用HP開設	知床世界遺産、愛知万博	
H18 新井榮一氏 群馬県環境功労章受章		

※1 最初は市町村の推薦により設立されたが、5年の歴史を経て連絡協議会が設立。（代表：新井榮一氏）

※2 連絡協議会にある今の部会は5つの分散会から編成・合併をしてできた。（H13専門部会設立）

※3 現在は県庁にて行われているが、過去はヤマダ電機などで行っていた。

※4 エコムーブ号を用いて、小中学校に赴きカテゴリーに分け授業を行っている。

第7期～12期（平成19年～令和5年） 代表 第9・10期：須永氏 第11期：原田氏 第12期西村氏

アドバイザーの活動	日本の変動	世界の変動
H18 鈴木克彬氏環境大臣賞受賞	H19 環境・循環型社会白書発行	
〃 城田博巳氏群馬県環境功労賞受賞		
H20 高山村手入れ、ごみ削減発表会		
H23 緑のカーテン運動協力	3.11 東日本大震災※1	名古屋議定書署名
H24 環境にやさしい買い物スタイル開始※2	原子力規制委員会設置法公布	私たちの望む未来
H25 ごみ減量フォーラム開催※3	富士山世界遺産登録	採択
H26 研修会実施、	2/14・15 記録的な降雪	
H27・28・29 研修会実施、アンケートの実施	赤城大沼 放射線汚染続く	
R1 レジ袋削減店舗啓発の協力	H29 福岡・大分大雨被害	
R4 プラ資源循環促進施行	ぐんま5つのゼロ宣言	

食品ロス削減推進サポーター R 5 プラ資源有効活用を啓発活動（市役所など）	レジ袋有料化、コロナ※4	
---	--------------	--

群馬県環境アドバイザーの活動変遷、国内外の動きは環境省 50 年史より引用

- ※1 東北地方太平洋沖を震源とし、その後福島第一原発事故など甚大な影響が出た。
- ※2 県内の各地区のスーパーを回り、啓発活動を行っている。
- ※3 R 4 年ごみ減量フォーラムから環境フォーラムに名称変更
- ※4 中国を発端にして世界に蔓延。多くの死者・被害が出た。臨時休業や分散登校になり、外出もできなくなった。その後リモート授業、在宅勤務がはやる。R 3～4 「新しい生活様式」厚労省が発表し、規制緩和、R 5 第 5 類に移行し規制解除。

第 13 期（2024～2027） 代表：井上氏

2024 年 4 月より 13 期の活動が始まり、今月で 2 年目に突入しました。今期では、新型コロナの影響も少なく、若い世代や、「環境エコカレッジ」受講修了者が新たな仲間入りとなり登録者が増加しました。また、その影響もあり、より活発な活動が始まりました。

～県の出前講座の活用～

各部会では部会の内容に沿った県の出前講座を活用し、より深く・詳しく勉強をしています。県の方と活発な意見交換を行うことにより、知識が得られ、今後どのようにしていかなければいけないのかを考える貴重な時間になります。今後も活用し活発な意見交換をしていき少しでも環境を保全できるよう考えていきます。

～現地での活動・視察～

環境アドバイザーは各部会や GN を発行している広報委員会以外にも県内の各地区で活動している方もいます。自然環境、生物多様性やごみの問題を解決・支援等をしていくにあたり、現地での活動や現地視察を行っています。現地を見ることで「このプロセスでやっているのか」や、「ここは今後改善していかないといけない部分だ」と考えることができるため、2 年目からも行っています。

～環境フォーラム・環境フェスティバル～

環境アドバイザー連絡協議会では、11 月の第 1 週の土曜日に環境フォーラムを開催、3 週の土曜日には、環境フェスティバルに参加しました。フォーラムは各部会の報告や大学生の報告もあり、私たちが活動していることを伝える大事な時間になります。そして、他の部会の活動も聞くことができる貴重な機会です。今年度の様子は 98 号に掲載しておりますので是非ご覧ください。フェスティバルは、企業の方や、高校・大学の方も出店し、実際の活動や、説明を行っております。県内各地の企業様がお見えになるのですごく楽しめるイベントになります。

結びに

環境アドバイザーは、ボランティアでありながら少しでも環境が良くなるように一人ひとり活動しています。登録者は若手の人がまだ少ない状況です。これから世代交代が必要になっていくと思いますし、若い人にも興味を持ってもらいところです。そして、13 期も 2 年目に入ったため、更なる活動が期待されます。これからも 1 年目で学んだことを活かし、活発な活動を行っていきます。乞うご期待ください！100 号発行おめでとうございます。

私の基本的な認識

自然環境部会長 国安 俊夫

30年余りのレンジャー（自然保護官）としての仕事を通じて、わが国を代表する国立公園の景観を保護し維持してくれた主体は地域の人々、特に自然の生産力や循環の範囲内で行われてきた第1次産業であったと認識しています。

ところが、昭和30年代からの農業形態や生活様式の変化（近代化）、産業構造の変化とエネルギー革命、それによる第1次産業従事者の減少と高齢化による第1次産業の衰退が起こり、第1次産業だけでは生活することができなくなったことが、生物多様性の危機の原因の一つになっています。

これを解決するには、地域に生活する方々が、地域に誇りを持つことと、若者の働く場の確保が重要で、生業としての第1次産業の再生、地域資源を活用した持続的な地域産業の育成、第1次産業と第3次産業との連動などが不可欠であり、その方策の一つとしてエコツーリズムの推進があると考え取り組んできたところです。

もう一つは、離島でのごみ問題、一生懸命海岸清掃をしても、海外も含めた島外からの漂着ごみによりすぐに元の木阿弥になる、廃車処理には島外搬出が必要だが費用が掛かるため放置され、プラスチックなど自然界で分解されないものがどんどんたまり、ごみ捨て場の確保が困難になるとともに、野生生物のごみへの依存などの現実から、ごみになる物を島外から持ち込まない、自然界で分解できない物は使わない、島外のごみの排出を規制する等が大切だと実感しました。また、物質は出来るだけその地域内で循環させることが輸送エネルギーを削減し、エネルギーの無駄使い抑止になるとも考えます。

更に、一番エネルギー効率が良く出来ているのが自然界の仕組みで、科学技術がいかに発達しても、自然の能力を超えることは出来ないと確信しています。

以上、謙虚に生活しないと自然から大きなしっぺ返しを受ける事となる。将来の世代に持続可能な自然環境を残してゆくのが現代に生きる我々の責務であると考えています。



33年100号を振り返りながらのこれから

ごみ部会長（高崎）奈賀 由香子

この原稿を書くにあたり、グリーンニュース創刊号からざっと目を通しました。100号に至るまでの長い活動の歴史です。群馬に引っ越してきたのが2001年なので、実感を伴うのはそれ以降になりますが、初代の先輩方の熱気伝わる紙面に勢いを感じますし、多くの皆様や担当の県職員の方々の顔も思い浮かびます。初心に戻ったようで気持ちが引き締まります。

発足当時から温暖化問題がクローズアップされるまでは、ごみ問題に関心が多く寄せられていましたが、長い活動の結果、生ごみ削減・たい肥化の周知やレジ袋有料など成果を出してきたことがわかります。そういえば、十数年前、廃食油回収事業を始められたSさんが、「群馬の廃食油回収は市民が積極的にやってくれているのです、こんなところはないと思いますよ！」と話していたのが忘れられません。それくらいアドバイザーをはじめとする市民が頑張ってきたのですね。



さて、分別回収もだいぶ進んできましたが、まだまだできることはありそうです。今の大きな課題はプラスチック問題へと移り変わってきましたが、容器リサイクル法ができたとはいえプラごみは、その回収方法、処理方法も曖昧なものが多いです。マイクロプラスチックからナノプラスチックへとますます手に負えない感じになっていますが、市民にできることは何でしょう？本当の循環型社会を目指して「循環する仕組み」を産業も行政も市民も一緒になって作らなければならないのではないのでしょうか。ごみ部会はそのような議論とアイデアの場、実践の場としていきたいですね。

温暖化防止のための部会メンバー相互の協働に向けて

温暖化・エネルギー部会長 本多 洋治

現在、当部会に登録頂いている部会員数は125名(3月末現在)となっており、各メンバーがそれぞれ地域や所属団体等で積極的な活動を行っています。昨年度は、第13期の部会活動方針を策定し、期の1年目の活動がスタートしました。今年度は期の2年目となり、1年目の活動を踏まえて、部会員相互の連携を図りながら、省エネ・創エネの動向を知るとともに、温暖化防止に繋がる啓発活動を、さらに前に進めていきます。



当部会の今年度推進していく主な活動について紹介します。まず、各部会員の活動に関する情報交換の場として、例年どおり、定例会を2か月に1度開催していきます。今年度は事前に情報提供を頂ける方を指名して、日頃実践している温暖化防止の活動発表を行ってもらうこととしました。その他、県や市町村の出前講座を活用して、行政の温暖化防止・CO₂削減の取り組みを知り、自分たちの活動に活かしていきます。

群馬県が行っている「地域環境学習事業」を活用した講演会も、例年どおり開催します。今年度は、「温暖化に負けない効果的な緑の都市づくりを考える」と題して講演会を開催する予定です。都市緑化と温暖化防止の関係について学び、参加者も交えた意見交換会も行いたいと考えています。さらに、再生可能エネルギー発電施設や省エネ・リサイクル等に取り組む企業・団体等への施設見学会や、企業担当者からのCO₂削減の取り組み等に関する学習会の開催も予定しています。多くの県民の皆さまに参加していただけるよう、講演会等の周知方法を工夫しながら、啓発活動を展開していきます。

また、前期から実施してきました「部会自主活動」は、継続して行っていきます。「太陽光発電調査」「地熱発電調査」「公共交通実証実験」「太陽光発電リサーチ」の各チームの活動に、今年度から「小水力・バイオマス発電調査」チームを加えて、5チーム体制で活動を行っていきます。多くの部会員方の活動参加を期待しています。

今後も、部会メンバーが自ら温暖化防止の活動に取り組むことはもちろんのこと、当部会の活動を通して情報を共有し協働することで、県民による温暖化防止の取り組みの広がりを、さらに推進していけたらと考えています。

中部地区の活動とは

副代表（中部地区） 松岡 三吉

環境アドバイザー通信 No.1・2号、グリーンニュース1号から99号に環境アドバイザー中部地区の活動がどのように記載されているかを調べてみました。

グリーンニュース第1号では「伊勢崎ブロック」、第2号では「中部ブロック（現在はすべて前橋市）」、第4号では「渋川ブロック」などの表記があり、現在は「前橋地区」、「伊勢崎地区」、「渋川地区」などの表記になっております。「中部地区」としてのまとまった活動ではないようです。なお、前橋地区にも「南橋の自然観察と環境を守る会」などの複数の活動団体があります。

渋川地区では、令和6年10月17日と、令和7年2月5日に、ベシシアこもち店（渋川市）、10月18日と2月6日に、フレッセイ吉岡店で、中部環境事務所・渋川市・吉岡町・榛東村の担当者とともに、「令和6年度 環境にやさしい買い物スタイル普及啓発活動」の実施に協力しました。雪が降りかかる日もありましたが、店もお客さんも協力してくださいました。なお、渋川市エコ・リーダーでもありますので、以前から渋川市の環境関係の活動や研修会にも協力しています。



東部地区のこれまでの活動と今後の展望

太田市 西村 豊

東部地区では、桐生市・みどり市・太田市・館林市・大泉町を中心に、地域の環境保全や市民への啓発活動を継続的に実施してきました。

I. これまでの主な活動

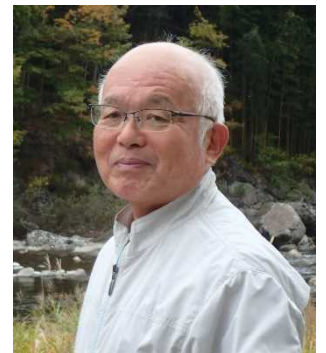
- ① 桐生市・みどり市：▶カッコソウの保全活動を長年にわたり実施。▶アースデーの開催に協力し、環境意識の向上に貢献。▶桐生川の清掃活動を継続的に実施し、河川環境の改善に取り組む。
- ② 太田市：▶新田湧水群をはじめとする湧水地や貴重な植物の保全活動を実施。▶金山のカラタチ沢の整備を定期的に実施。▶地域環境学習の企画・実施を通じ、市民に自然環境の大切さを伝える活動を実施。
- ③ 館林市：▶「里沼」と呼ばれる地域の水環境を活かした保全活動を実施。▶河川や水辺の自然環境の維持・改善に向けた活動を実施。
- ④ 大泉町：▶持続可能な地域づくりを考えるシンポジウムを開催。

II. 今後の計画

今後は、新たに加わった環境アドバイザーや幹事と連携し、より広範な活動を展開していく予定です。

▶地域の自然環境をテーマに、太田（湧水群・金山）、館林（里沼・川）、大泉町などのメンバーと協力し、連携を強化する。▶カッコソウの生育地での保全活動を継続し、貴重な植物を守る。▶市民向けイベントや環境学習を通じた啓発活動を実施し、環境問題への関心を高める。▶勉強会を開催し、専門的な知識の習得や情報共有を進める。

これからも、東部地区の自然環境を守り、次世代に引き継ぐために、地域と協力しながら活動を続けてまいります。



— 以 上 —

2030 年目標期限に向けた取組み

沼田市 角田 和男

地域に飛び込みふれあいを求めて、群馬県環境アドバイザーに登録し、うん十年が経ちました。専門的な知識や情報をお持ちの皆さまにめぐり会えて、活動の原動力となっております

さて、ご承知のとおり 2030 年を目標期限とする喫緊の課題として二つあります。

一つは『デコ活・脱炭素』の取組みです。沼田市ではゼロカーボンシティを宣言し、2030 年度温室効果ガス排出量 50%削減(13 年度比)する中期目標を掲げています。いま、市、市民、事業者が一層連携・協働しながら、脱炭素に向け取り組んでいます。

もう一つは、より持続可能な未来を築くための『SDGs』です。様々な要因が絡み国際社会全体の取組みが遅れているようです。私自身の SDGs に関する取組みは、紙による呼びかけが主であって、具体的なアクションの展開に欠けている面を反省しています。

この際、これまでの活動を振り返り、今を省み、未来を見つめつつ、スキルアップに努めてまいりたいと思います。

この度は、グリーンニュース 100 号発刊おめでとうございます。環境政策課並びに環境サポートセンターはもとより、編集に携わる皆さまに心より感謝申し上げます。



地域との関係強化

高崎市 田中 和夫

環境アドバイザー全体の行事として環境フェアや環境フェスティバルがあり、また各専門部会もそれぞれ機能していると思います。

利根沼田や高崎、前橋も地区会を立ち上げて活動していますが、地域との連携はどうなのでしょうか？

歴史的に永く続けられている所もあるかと思いますが、全体として十分機能しているのでしょうか？

各町内会にも環境に関する組織があると思いますがこれらとの連携はどうか？研究してゆく価値はあるのではないかと思います。



環境アドバイザーに登録して

副代表（吾妻地区） 反町 忠雄

群馬県環境アドバイザー連絡協議会会報グリーンニュースが100号を迎え、諸先輩方と一緒に活動できることに感謝いたします。

私は、群馬県地球温暖化防止活動推進員として草津町文化祭において地球温暖化防止活動の展示を一人でしていました。毎年、同じような展示をしていて変化がありませんでした。他の活動をしている人と交流が必要と思い、今年初めて環境アドバイザーに登録しました。会議や専門部会、県庁で行われたぐんま環境フェスティバル等に参加して、他の環境アドバイザーとの交流が出来て大変勉強になりました。

吾妻地区は中之条町、長野原町、嬬恋村、草津町、高山村、東吾妻町の4町2村です。現在の環境アドバイザーの登録者数は10人です。群馬県の西北部に位置し、山が多く自然に恵まれた地域です。温泉やスキー場等観光地としても有名です。買い物に行く場合は、自動車が欠かせません。

自然に囲まれて生活していますので、住民の環境に対する意識は低いです。近年は、気温が暑かったり寒かったり、大雨が降ったり、大雪になったり、気候の変化が激しいです。

これからは、環境の変化に対応していかなければなりません。環境について学び他の住民に啓発することに終わりはありません。生涯学習です。これからも、環境アドバイザーとして他の環境アドバイザーと一緒に活動していきます。



・・・・・・・・・・・・・・・・・・【編集後記】・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今回の号をもちまして、私たちの活動とともに育まれてきたGreenNewsも100号を迎えることができました。これもひとえに皆さまのご活躍と諸先輩方のご尽力の賜物と存じます。この場をお借りして、感謝申し上げます。

さて、環境の世紀と言われた21世紀が始まり25年、四半世紀が過ぎました。その間、国際的な枠組み、国内での法整備や地域での活動と“環境”への意識の高まりが進みました。私たち環境アドバイザーも“活動の輪をつなぎ・ひろげ”その一翼を担ってきました。

一方、地球温暖化の進行、生物多様性の損失やプラスチックごみの大量廃棄など私たちの生活や生態系へのインパクトが大きくなっていることも事実です。これらの問題に対して私たちがどのように向き合い、行動していくかが大きな課題です。

今、皆さまの描いた未来に近づいていますでしょうか？

GN100号をひとつの区切りとして、これまでの活動を振り返り、新たな一步を踏み出すための機会になれば幸いです。皆さまの更なるご活躍を楽しみにしています。



GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp